

毎年おなじみの インフルエンザ

まず、インフルエンザですが、大昔より世界的大流行の記録があります。1918年のスペインかぜでは、全世界の罹患者数6億、死亡者は4,000万人にのぼったと推定されています。

インフルエンザウイルスはウイルス粒子の抗原性の違いから、A、B、Cの3型に分けられ、このうちA型とB型が流行します。わが国のインフルエンザは、毎年11月下旬から発生が始まり、翌年の1〜3月頃にその数が増加、以後減少というパターンをとります。発熱、頭痛、全身の倦怠感、筋関節痛などが突然現われ、咳、鼻汁などがこれに続き、約1週間で軽快するのが典型的です。

正確な診断にはウイルス学的な裏付けが必要で、現在ではインフルエンザ抗原を検出する迅速キットが使われています。インフルエンザに対する特異的療法として、抗ウイルス剤による治療が挙げられます。アマタジン(商品名・シンメトレル)は、A型ウイルスの表面にあるM2蛋白に作用してウイルスの細胞への侵入を阻止しますが、B型ではM2蛋白が存在しないので無効です。その他ウイルスのノイラミニダーゼ作用を阻害し、細胞内で増殖したウイルスが細胞外に放出されることを抑

制する薬として吸入薬のザナミビル(商品名・リレンザ)と経口のオセルタミビル(商品名・タミフル)があります。ともにA、B両型に対し効果ありますが症状発現から48時間以内に投与開始しないと効果が低いので診断がつき次第速やかに投与すべきとされています。

ワクチンは、高熱などの症状を軽くし、合併症による入院や死亡を減らすことができ、特に65歳以上の高齢者や基礎疾患を有する方はインフルエンザが重症化しやすいので、ワクチン接種による予防が勧められています。

新しい感染症SARS

SARSはSevere Acute Respiratory Syndrome(重症急性呼吸器症候群)の略で、昨年11月に中国広東省に端を発し、世界中のいくつかの国でも大きな問題となった新しく発見された感染症です。

SARSの原因となる病原体は世界保健機関(WHO)により新型コロナウイルスであることと決定され、「SARSコロナウイルス」と名付けられました。コロナウイルスはもともと冬場にかぜ症候群の原因となるウイルスですが、症状は軽いことが多く、今まで問題になることは無かったのです。しかし、SARS



インフルエンザ と SARS[サーズ]

今回は、「インフルエンザとSARS」について、呼吸器科の水野先生にお話を伺いました。

今年もインフルエンザのシーズンが近づいてきました。一昨年より高齢者へのワクチンにおいては、地方自治体から一部補助されるようになり、また、報道などで一般への関心も高まったおかげでワクチン接種も広く行われ、昨シーズンは、大流行が避けられた感があります。インフルエンザも充分気をつけなければいけないものですが今年初めより話題となったSARS(サーズ)も注意が必要です。今回はインフルエンザとSARSについてそれぞれお話ししたいと思います。

ところ不明です。

主な症状としては、38以上の発熱、咳、息切れ、呼吸困難などで、胸部レントゲン写真で肺炎像が見ら

コロナウイルスは、従来知られていないコロナウイルスとは遺伝子的にかなり異なります。しかし、それがどのようにして出現したかは、いまの